

福島県 12 市町村家賃補助金交付要綱

(趣旨)

第 1 条 福島県は、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う避難指示等の対象となった 12 市町村（田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村。以下、「12 市町村」という。）において、12 市町村外からの移住者の定住を図るため、賃貸住宅を契約し入居した移住者に対し、福島県補助金等の交付等に関する規則（昭和 45 年福島県規則第 107 号。以下、「規則」という。）及びこの要綱に定めるところにより、予算の範囲内で補助金を交付する。

(定義)

第 2 条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 家賃補助金

第 3 条で規定する要件を満たす者に対し、福島再生加速化交付金を活用し交付する補助金をいう。

(2) 賃貸住宅

12 市町村内において、賃貸借契約により移住者自らの居住用に供する住宅（戸建て住宅、アパート等の集合住宅）をいう。ただし、原則として次のものを除く。

ア 市町村営又は県営住宅等の公的賃貸住宅

イ 社宅、社員寮等の事業主から貸与を受けた住宅

ウ 3 親等以内の親族及び姻族が所有する住宅

エ その他、この補助金の趣旨に合わない住宅

(3) 家賃

賃貸住宅の賃貸借契約で定められた月ごとの賃借料（管理費、共益費、駐車場使用料及び自治会費等を除く。）をいう。

(4) 住宅手当

勤務先から支給される住宅に対する手当をいう。

(補助対象者の要件)

第 3 条 家賃補助金の交付を申請しようとする者（以下、「申請者」という。）は、当該各号に掲げる要件を全て満たすものとする。

(1) 令和 8 年 4 月 1 日以降に 12 市町村に転入（住民票を異動）したこと（転勤、出向等は除く）。

(2) 12 市町村に転入する直前に、連続して 3 年以上、12 市町村外に居住していたこと。

(3) 自らの意思で 12 市町村外から転入し、転入日から 5 年以上継続して、12 市町村内に定住することを誓約すること。

(4) 平成 23 年 3 月 11 日時点で 12 市町村外に居住していた（12 市町村外に

住民票があった) こと。

(5) 原則、不動産仲介業者を通じて賃借している賃貸住宅に居住していること。

(6) 賃貸住宅を契約し入居した移住者であること。

(7) 対象となる賃貸住宅の居住以外の目的使用、転貸又は使用权の譲渡を行わないこと。

(8) 就業又は起業していること。

(9) 目的及び財源を同じくする他の補助を受けていないこと。

(10) 過去に当該補助金の交付を受けた者でないこと（過去に当該補助金の交付を受け返還命令の対象となった者や虚偽の申請等が判明した者を含む）。

(11) 暴力団等の反社会的勢力又は反社会的勢力と関係を有する者でないこと。

(12) 日本国籍を有する者であること。ただし、外国籍の場合は、永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等、定住者、特別永住者のいずれかの在留資格を有する者であること。

(13) 市区町村税を滞納していないこと。

(14) その他、知事が当該補助金の対象として不適当と認めた者でないこと。

(補助金額及び交付期間等)

第4条 家賃補助金は、家賃から公営住宅相当分の基準額3万5千円及び住宅手当を控除した額とし、上限は月額4万円とする。

2 前項の規定により算出した額に1,000円未満の端数があるときは、これを切り捨てるものとする。

3 補助金の交付対象期間は、当該補助金の申請日の属する月の翌月から起算して最大36月とする。ただし、申請日が月の初日である場合には、当該申請日の属する月から起算して補助するものとする。

4 申請年度における交付対象は、当該年度の4月から翌年3月までの期間に係る家賃とする。

(交付申請)

第5条 申請者は、福島県12市町村家賃補助金交付申請書（第1号様式）に、当該各号に掲げる書類を添えて、知事に提出しなければならない。

(1) 賃貸借契約書の写し

(2) 世帯員全員の記載がある住民票謄本の写し

(3) 写真付き身分証明書（提示により本人確認できる書類）の写し

(4) 移住元の住民票の除票の写し（居住地、居住期間を確認できる書類）

(5) 戸籍謄本の附票の写し（平成23年3月11日時点の居住地を確認できるもの）

(6) 就業証明書（第2号様式）又は、自ら事業を営んでいることを証明するための売上等が分かる資料

(7) 家賃補助金を申請する直前の1月1日時点で住民登録していた居住地における市区町村民税を滞納していないことを証明する書類

(8) 福島県12市町村家賃補助金の交付申請に係る誓約書（第3号様式）

- (9) 福島県 1 2 市町村家賃補助金に係る個人情報の取扱い同意書（第 4 号様式）
- (10) 当該補助金の振込先となる口座の預金通帳等の写し
- (11) その他、知事が必要と認める書類

2 家賃補助金の交付申請は、前条第 4 項に規定する期間ごとに行わなければならない。

（交付決定）

第 6 条 知事は、前条の規定による申請があったときは、その内容を審査し、交付することが適当と認められるときは、申請者に通知するものとする。

2 前項の規定による審査の結果、補助金を交付することが不適当と認められるときは、その理由を付して、申請者に通知するものとする。

（交付決定内容の変更）

第 7 条 前条第 1 項の規定により家賃補助金の交付決定を受けた者（以下、「交付決定者」という。）は、交付決定の内容を変更しようとする場合には、福島県 1 2 市町村家賃補助金変更交付申請書（第 5 号様式）に変更の内容が確認できる書類を添えて知事に提出し、その承認を受けなければならない。

2 知事は前項の規定に基づく申請書を受理したときは、これを審査し、変更の内容が適正であると認め、これを承認したときは、交付決定者に通知するものとする。

（交付申請の取下げ等）

第 8 条 交付決定者は、第 6 条の通知に係る交付決定の内容又はこれに付された条件に対して不服があるときは、交付申請を取下げることができる。

2 前項の取下げを行うときは、第 6 条による交付決定を受けた日から起算して 1 0 日以内に、福島県 1 2 市町村家賃補助金取下げ申請書（第 6 号様式）を知事に提出するものとする。

（実績報告）

第 9 条 交付決定者は、交付決定のあった日の属する年度の 2 月末日（その日が土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律（昭和 2 3 年法律第 1 7 8 号）に規定する休日の場合は、その直前の平日）までに、福島県 1 2 市町村家賃補助金実績報告書（第 7 号様式）に次の各号に掲げる書類を添えて知事に提出しなければならない。

- (1) 家賃を支払ったことを証明する書類（第 8 号様式）
- (2) その他、知事が必要と認める書類

（補助金の額の確定）

第 1 0 条 知事は、前条の規定による実績報告書等を受理したときは、これを審査し、第 6 条の交付決定の内容に適合すると認められるときは、補助金の額を確定し、交付決定者に通知するものとする。

（補助金の請求及び交付）

第 1 1 条 前条の規定による通知を受けた交付決定者は、速やかに、福島県 1 2 市町村家賃補助金交付請求書（第 9 号様式）を知事に提出しなければならない。

2 知事は、前項の規定による請求書を受理したときは、交付決定者に家賃補助金を交付するものとする。

(交付決定の取消し)

第12条 知事は、交付決定者が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、交付決定の全部又は一部を取り消すことができる。

- (1) この要綱又は関係法令に違反したとき
- (2) 虚偽の申請、その他不正の手段により交付の決定を受けたことが明らかになったとき
- (3) 12市町村から転出したことにより、又はその他の理由により、第3条に規定する12市町村内への居住継続の要件を満たさなくなったとき
- (4) その他、知事が適切でないと認めたとき

(返還制度)

第13条 知事は、前条の規定により家賃補助金の交付決定を取り消したときは、既に交付した家賃補助金の全部又は一部の返還を命ずることができる。

- 2 知事は、倒産、災害、病気等のやむを得ない事情があると認めた場合は返還額の全部又は一部を免除することができる。
- 3 知事は、第1項に基づく返還を命ずるときは、その命令に係る当該補助金の受領の日から納付の日までの期間に応じて、年利10.95パーセントの割合で計算した加算金の納付を合わせて命ずることができる。
- 4 第1項に基づく当該補助金の返還期限は、当該命令のなされた日から20日以内とし、期限内に納付がない場合は、未納に係る金額に対して、その未納に係る期間に応じて年利10.95パーセントの割合で計算した延滞金を徴することができる。

(会計帳簿等の整備等)

第14条 交付決定者は、家賃補助金の申請に関する証拠書類を整理し、かつ、これらの書類を申請年度における補助金の額の確定が完了した日の属する会計年度の終了後5年間保存しなければならない。

(報告及び立入調査)

第15条 知事は、家賃補助金の交付について適正を期するために必要があると認めたときは、交付決定者に対して居住実態や就業状況等に関する報告及び立入調査を求めることができる。

(転出・転居等の報告)

第16条 交付決定者は、12市町村内への転入日から5年を経過する日までの間に、12市町村から転出しようとする場合又は転居しようとする場合は、転出・転居先等報告書(第10号様式)により知事に報告しなければならない。

附 則

この要綱は、令和8年4月1日から施行する。

福島県 12市町村家賃補助金に関するQ & A

【制度の概要】

Q1 この家賃補助金はどんな目的の制度ですか？

A1 この制度は、12市町村（※）へ移住する方の住まいにかかる負担を軽くし、安心して新しい生活を始めていただくとともに、12市町村内に定着していただくことを目的としています。

12市町村へ移住し、民間の賃貸住宅に住む方の家賃について、**最大月額4万円、最大36か月**補助します。

（※）東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う避難指示等の対象となった福島県内の12の市町村（田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村）を指します。

Q2 自分が対象になるか簡単に確認できますか？

A2 次の全てに当てはまる方が対象です。

- ☐ 令和8年4月1日以降に12市町村へ転入した（※）
- ☐ 転入前に連続して3年以上12市町村外に居住していた
- ☐ 民間賃貸住宅に居住している
- ☐ 就業又は起業している
- ☐ 自分の意思で移住し（転勤命令ではない）、5年以上継続して12市町村内に定住する意思がある
- ☐ 平成23年3月11日時点で12市町村外に居住していた
- ☐ 市区町村民税等の滞納がない

その他詳細については申請前に御相談ください。

（※）令和8年3月31日までに転入した方については、お住いの自治体で補助制度を実施している場合がありますので、市町村の移住窓口にお問い合わせください。

Q3 店舗兼住宅の家賃についても対象になりますか？

A3 あくまで「居住用に供する家賃分（※）」が対象となります。

したがって、家賃を事業経費として計上している場合の事業経費分の家賃や「店舗用」、「事業用」などと記載されている契約、賃借人が法人名義の場合等の家賃は対象外となります。

（※）居住用に供する家賃分の算定にあたっては、床面積の割合で按分する等、客観的・合理的な基準を用いてください。

Q4 12市町村内での引っ越し（市町村間の移動）は対象になりますか？

A4 対象になりません。

本制度は、12市町村外から新たに移住する方を対象としているため、R8.3.31 以前に既に12市町村内に住んでいる方が、12市町村内の別の市町村へ転居した場合は補助対象外となります。

なお、家賃補助金の交付決定を受けた後に、12市町村内で転居する場合は、通算で最大36か月の範囲内で補助を継続して受けることができます（所定の手続が必要です）。

※ 12市町村内からの転入は本制度において「新規移住」には該当しませんが、お住いの自治体で独自に補助を実施している場合がありますので、市町村の移住相談窓口にお問い合わせください。

【補助内容（補助対象者、補助額）】

Q5 勤務先の転勤で12市町村に引っ越した場合も対象になりますか？

A5 勤務先の命令による転勤や出向の場合は、原則として対象になりません。

この制度は、自らの意思で12市町村へ移住した方を対象としているためです。

ただし、本人の希望による転勤や、勤務先の移転に伴い転居した場合など、自発的な移住と認められる場合は、例外的に対象となることがあります。詳しくは申請前にコンタクトセンターまで御相談ください。

Q6 家賃補助金の補助額はいくらもらえますか？どのように計算しますか？

A6 補助額は、家賃から3万5千円と住宅手当を差し引いた額です。

ただし、月額4万円が上限となり、1,000円未満は切り捨てます。

なお、国の制度ルールにより、公営住宅と同程度の自己負担額を確保するため、家賃から3万5千円を差し引いて計算します。

【計算例】

■ 家賃8万円、住宅手当なし

→ 8万円 - 3万5千円 = 4万5千円
= 月4万円補助

■ 家賃8万円、住宅手当2万円あり

→ 8万円 - 2万円 - 3万5千円 = 月2万5千円補助

■ 家賃8万円、住宅手当9,500円あり

→ 8万円 - 9,500円 - 3万5千円 = 35,500円
= 月3万5千円補助

Q7 勤務先の社宅や社員寮に住んでいる場合も対象になりますか？

A7 社宅や社員寮に住んでいる場合は、補助の対象になりません。

この制度は、移住者が民間の賃貸住宅を自ら契約して住む場合を対象としているため、勤務先から貸与される住宅（社宅・社員寮など）は対象外となります。

なお、家賃の一部を自己負担している場合でも、勤務先名義の社宅等であれば対象になりません。

Q8 家賃に共益費などが含まれていて内訳が分かれていない場合、補助対象額はどのように計算しますか？

A8 賃貸契約書に「家賃〇円（共益費込み）」などと記載され、家賃と共益費等の内訳が分かれていない場合は、管理会社や貸主に内訳を確認し、共益費等を除いた金額を補助対象家賃として取り扱います。

内訳が確認できない場合は、個別に確認の上、補助対象額を判断しますので、事前にコンタクトセンターまで御相談ください。

Q9 家族や同居人と一緒に住んでいる場合でも申請できますか？

A9 同居している場合でも申請できます。

ただし、補助金を申請できるのは、賃貸住宅の契約者本人（移住者）に限られます。

配偶者や同居人が契約者となっている場合は、その契約者が要件を満たしている必要があります。

Q10 勤務先（就業先）は12市町村内である必要がありますか？

A10 12市町村に実際に居住し、生活していることが必要ですが、勤務先の所在地に制限はありません。

そのため、12市町村外で働いている場合でも申請できます。

Q11 家賃補助金は最長どのくらい受けられますか？

A11 補助期間は、申請があった月の翌月から最大36か月（3年間）です。

ただし、申請日が月の初日（1日）の場合は、その月から補助対象となります。

Q12 日割りで支払った家賃は補助対象となりますか？

A12 月の途中で入居又は退去した場合など、日割り計算された家賃は補助の対象になりません。

ただし、月の途中で退去する場合でも、退去月の家賃を前月までに満額支払っているときは、その月分は補助対象となります。

【申請方法・審査の流れ】

Q13 家賃補助金の申請期限はいつまでですか？

A13 初めて申請する場合は、その年度の1月末日までに申請してください。
また、2年目以降も継続して補助を受ける場合は、毎年度4月末日までに申請が必要です。

Q14 家賃補助金はどのように申請すればよいですか？また、どんな書類が必要ですか？

A14 申請窓口は、以下のとおり郵送と持参で提出先が異なるので御注意ください。

【郵送により提出する場合】

事務局（株式会社URリンケージ）

住所：〒135-0016 東京都江東区東陽 2-4-24 サスセンター4F

【持参する場合】

ふくしま12市町村移住支援センター

住所：福島県双葉郡富岡町小浜字中央 295

申請の際は、次の書類を提出してください。

① 交付申請書（第1号様式）

※ 次問のとおり、年度毎の申請が必要となりますので「支払予定家賃月数^①」については「当該年度の4月から翌年3月までの月数」を記載してください。

② 賃貸借契約書の写し

③ 世帯全員が記載された住民票（謄本）の写し

④ 写真付き本人確認書類の写し

⑤ 移住元の住民票の除票の写し

⑥ 戸籍の附票（平成23年3月11日時点の住所が確認できるもの）

⑦ 就業証明書（第2号様式）又は、自ら事業を営んでいることを証明する資料（売上等が確認できる書類）

⑧ 直近の1月1日時点で住民登録されていた市区町村民税の滞納がないことを証明する書類

⑨ 誓約書（第3号様式）

⑩ 個人情報取扱い同意書（第4号様式）

⑪ 振込先口座が分かる通帳等の写し

Q15 2年目以降も申請は必要ですか？また、提出書類は変わりますか？

A15 補助を継続して受けるためには、毎年度申請が必要です。

ただし、2年目以降は提出書類の一部を省略できます。

【毎年度提出が必要な主な書類】

- ・ 交付申請書（第1号様式）
- ・ 就業証明書（第2号様式）又は、自ら事業を営んでいることを証明する書類（売上等が確認できる書類）
- ・ 市区町村民税の滞納がないことを証明する書類 など

【2年目以降は原則提出不要の書類】

- ・ 世帯全員が記載された住民票（謄本）の写し
- ・ 写真付き本人確認書類の写し
- ・ 移住元の住民票の除票の写し
- ・ 戸籍の附票（平成23年3月11日時点の住所確認書類）
- ・ 誓約書（第3号様式）
- ・ 個人情報の取扱い同意書（第4号様式）
- ・ 振込先口座が分かる通帳等の写し

※ 賃貸借契約書の写しについては、賃貸借契約の更新等があった場合に提出してください。

Q16 住宅手当があるかどうかは、どのように確認されますか？

A16 住宅手当の支給の有無や金額は、次の方法で確認します。

- ・ 申請時に、申請書で住宅手当の有無を申告していただきます。
- ・ あわせて、勤務先が発行する「就業証明書」により、住宅手当の支給の有無と月額を確認します。

なお、内容の確認のため、必要に応じて追加書類の提出や状況確認をお願いする場合があります。

Q17 自ら事業を営んでいる場合、どのような資料で証明すればよいですか？

A17 自ら事業を営んでいることの証明書類として、以下の書類を提出してください。

（1）個人事業主の場合

- a 開業届の写し
- b 事業の実態や売り上げ等が分かる書類

（2）法人等の代表者の場合

- a 法人設立届出書の写し
- b 事業の実態や売り上げ等が分かる書類

なお、提出された書類により、事業の実態について県が総合的に判断します。

Q18 申請後に状況が変わった場合はどうすればよいですか？

A18 次のような変更があった場合は、速やかに変更申請が必要です。

- ・ 転職、退職、起業など就業状況の変更
- ・ 家賃や住宅手当の変更
- ・ 12市町村内での転居
- ・ 12市町村外への転出予定

なお、変更手続を行わない場合、補助金の返還が必要となることがあります。

Q19 12市町村外に転出した場合、既に交付を受けた補助金は返還となりますか？

A19 12市町村以外へ転出されるなど、要綱第3条で定める「継続して居住すること」という条件を満たさなくなった場合、家賃補助の交付決定は取り消しとなります。

交付決定が取り消された際には、これまでにお支払いした家賃補助について、全額又は一部を返還していただく必要が生じる場合があります。

ただし、倒産・災害・病気など、やむを得ない事情があると認められる場合には、返還が免除される場合もあります。

転出の事情によって対応が異なりますので、転出や転居の予定がある場合には、「転出・転居先等報告書」の提出とあわせてコンタクトセンターまで御相談ください。